

## ■ 景観形成基準チェックシート(一般地域・全地区)

(対象：都市計画法第4条第12項に規定する開発行為、土地の開墾、土地の形質の変更、水面の埋立て又は干拓)

※周辺との調和への配慮がわかる図書を添付すること。

<b>届出者の氏名</b>						
<b>行為の場所</b>						
<b>周辺景観の特性</b>						
<b>地域の景観形成の方向 (市町村景観形成方針等の有無)</b>						
項目	規制の視点	景観形成基準	配慮事項	具体的な配慮又は工夫の内容	※適否	※意見
形状・緑化	圧迫感・威圧感	できる限り現状の地形を生かし、長大なのり面及び擁壁が生じないように努めること。	長大なのり面、擁壁が生じないように配慮しているか。	□のり面、擁壁の高さ： m □のり面、擁壁の長さ： m	適・否	
			圧迫感、威圧感の軽減に配慮しているか。			
	緑化	のり面はできる限り緑化が可能なこう配とし、周囲の植生と調和した緑化に努めること。	緑化可能なこう配となるよう配慮しているか。		適・否	
			周囲の植生と調和した緑化に配慮しているか。		適・否	
取組の中で特筆すべき点		(良好な景観形成のために特に取り組まれた事項がある場合は記入ください。)				
開発行為許可との協議	協議相手		協議日時	平成 年 月 日	協議方法	口頭・文書
	協議内容					

- 1) 記載に当たっては、項目欄の※印欄は記載不要です。
- 2) 項目欄の具体的な配慮又は工夫の内容について記載する場合、□印の内容については必ず記載して下さい。
- 3) 行為地において、市町村が景観の形成に関する基本方針等を定めている場合、その内容に適合するよう努める必要があります。